

民国連携によるナラ枯れ調査の実施について

1 民国連携について

県南広域振興局林務部では、国有林と民有林の連携より各種林業施策を円滑に進めるため、毎年、岩手南部森林管理署と意見交換会や現地検討会を開催しています。

その際、令和2年度に金ケ崎町内の国有林でナラ枯れ被害が確認され、民有林との境界近くにも拡大していることが話題となり、岩手南部森林管理署に配備されたドローンを活用し、共同で調査を実施することとしました。

2 調査の内容

(1) 事前打ち合わせ

ドローンを飛行させるルート、写真撮影するエリアについて事前に打ち合わせを行い、撮影エリアの森林所有者に対し、事前に承諾をいただきました。ルートは国有林と民有林の境界沿いに設定し、飛行時間を考慮して3つのエリアに分けて撮影することとしました。

(2) ドローン調査

9月21日(水)、天気は薄曇りで風もなく、絶好の撮影日和となりました。

事前に設定したルートに従い、エリア毎に20分程度の飛行・撮影を行いました。ルートは登録済なので、現地ではスタート後は自動運転で、戻ってくるドローンを待ちながらドローン搭載カメラの映像を操作者の手元にあるタブレットで確認しました。

その後、岩手南部森林管理署でオルソ化し、林班図に写真を重ねた図面を作成し、情報共有しました。写真では被害木と思われる立木が国有林境付近に確認されたため、引き続き現地調査も実施することとしました。



(3) 現地調査

10月4日(火)、岩手南部森林管理署の職員と共に、境界を確認しながら被害木の調査を行いました。

金ケ崎町で確認された被害木は国有林内だったものの、隣接した奥州市胆沢地内の民有林では9本の被害木が確認されました。

3 おわりに

今回、合同調査により詳細に民国の被害状況を確認するなど、効率よく現地調査を実施することができました。

森林病虫害の被害対策には地域的な戦略も必要となることから、今後もしっかりと連携をとり、地域の森林病虫害対策に取り組んでいくこととしています。